



夕刊 (刊) 一月二十... 部二五... 行一四〇... 料指廿... 發行兼編輯人... 印刷人牛谷政... 所合川活版所

改革概論(五)

大内 民 惠

第二章 史的考察

此中學塾教育と寺小屋教育とが徳川時代に於ける國民教育の基礎をなしたものでありますので、こゝにその概観を述べて見やうと思ふのであります。學塾の設立者は申すまでもなく何れも皆學者人格者であつて、幕府諸藩に仕へて公職を有したものであるか或は浪人儒者かでありましたが、就れも設立者自身が

引立たぬ花見氣分

賑ひは是からか

萬燈飾も全部つき忠魂祭に引續いて數々の催し

松ヶ岡公園の櫻花は七八分かねた數々の催しがある。の咲となつた十日から點する豫定の花間の萬燈飾も例年より約一週前早い開花に追はれて狼狽の中に架線

卒業式

藤田女學校の卒業式

藤田女學校の卒業式は、併卒業生製、作品陳列會

松ヶ岡公園の櫻花は七八分かねた數々の催しがある。の咲となつた十日から點する豫定の花間の萬燈飾も例年より約一週前早い開花に追はれて狼狽の中に架線を急ぎ公園だけは漸く九日の夜からついたので當夜は相當の出入を見せたが花と平町藤田女學校の第四十回卒業式は、併卒業生製、作品陳列會

スバルタの婦人が我子の出陣に臨み自ら盾を授け一勝ちて持歸れ、然らざればこれに乗りて歸れ」と戒めたといふ話は有名な話であります。それは戦時に於てであります。海行かば水漬くかばね、山行かば草むすかばね、大君に身命を捧ぐる我國民の歴史にはさうした實例は何程でもあるのであります。然るにこれは平時であり學校の教育精神であるのであります。

人出盛をメチヤク

今日の石城忠魂祭

石城忠魂祭は既報の如く、今司令官代理高橋大尉其他の十日午前十時松ヶ岡公園の祭文朗讀の後司會者から順忠魂碑前に於て舉行され、次參列一同の拜禮ありて遺列者の席定まる全十一時伏族廢兵に神酒及供物を頒付見支會長開始を告げて壯嚴し正午閉會したがあやにくなる神佛の兩祭式終つて伏見支會長、在郷軍人聯合分會長四家少佐、第二師團長れ公園内は掛茶屋連に氣の代理山内大佐、福島聯隊區毒な程さびかつた。

奇勝を色どる

川前のボーケ

變調と云つても今年の様(十ヶ年)▲白河署白坂(八ヶ年)▲須賀川署谷田川(十ヶ年)▲後平町松ヶ岡公園の花見に例年櫻の花が散る頃に川前遊山の人々を呼ぶだ川前のボーケ(岩つ、じ)は今真盛りで奇巖をかざる美しい車窓の眺めが石にさやく繚流を介して曳杖の客を誘つてゐる。

無火災地

表彰される

平町第三小學校に於て來十五日午前十時に開催される縣下消防組頭大會では二ヶ口にあの店は安くこの店は年以上の無火災町村を表彰されるが該當町村は左十四ヶ村である。▲高田署管下本郷(無火災九ヶ年)▲東尾岐(全十三ヶ年)

山神祭

不景氣を外に種々の催

石城地方の各炭礦では來る十四五六の三日間一齋に山神祭を行はれるが入山、弊城、古河、藤原、福島、大炭礦で炭況不振の中にも從業員慰安のため同祭禮費だけは思ひ切つた支出で大祭樂、茶番その他數種の催しに工夫をこらしてゐるから當日間の各礦は不景氣を外の賑ひであらう。

花見の塵

殺され

石城郡磐崎村角田たい四女栗田ふく(二)は去九日午前九時頃自宅前で遊戯中ころんだはずみに傍らのバケツをかぶり窒息死亡した。

米問題の重要

性之其の検討

石城郡に於ける米問題の重要、性之其の検討、外山生、承前、此の様な實狀であるから一ヶ口にあの店は安くこの店は年以上の無火災町村を表彰されるが該當町村は左十四ヶ村である。▲高田署管下本郷(無火災九ヶ年)▲東尾岐(全十三ヶ年)



入院應需 自炊の便あり
明雲堂眼科醫院
 平驛前 電話六六九番

玉屋洋品店
 平町田町通電話五六六番



洋服は 模範 裁縫
高島屋
 平町驛前 電話八〇七番

花見の折は立寄下さい
 御寫眞
三光館
 松ヶ岡公園 表坂の入口


安價に 迅速に 町噂に 親切に
 福島縣石城郡平町
遠藤活版所
 電話七四三番

よろちございますか
 うちりますよ
中島寫眞館
 平町字田町



最新流行行
 會津桐材 自製専門
小松はき物店
 磐城平町二丁目 電話九一〇番



初夏... サロン... の新装
 樽詰生ビール並に
 タンク入ソーダ水
 平町のソータフアンテン
 ソッコップ一杯 十五錢
 ソーダ水各種 十五錢



清らかなお茶を
 湯散をかける
茶亭
 平町田町通電話二〇番



帽子 シヤツ ネクタイ 子供服
 陽春の御用意
 ツルヤル
 平町四丁目電話一〇四番

伊平 伊関呉服店
 入荷山積
 ナフトール友仙
 メリンス友仙
 春柄本場銘仙
 英ネル新柄
 本セール
 正絹帯皮
 特に勉強の品々
 街客採の良品廉賣

本の冷蔵器
 製造元
 丸は
 平町三丁目 電話三五九番



金銀鉄器 金解禁と 國産品の愛用
 景品総額金二十萬圓
 景品内譯
 一等 蓄音器一臺 三百六十本
 二等 置時計一個 五百本
 三等 置時計一個 一千本
 四等 目覚時計一個 五千本
 五等 特製ナイフ 全部へ
 時計は信用ある精工舎製品を
 特約店 **大谷時計病院**
 平町三丁目 電話十九番

金銀鉄器 金解禁と 國産品の愛用
金屋
 良品廉賣は
金屋
 平町五丁目電話三九番

春に應はしいお召ものは
モリタヤ
 洋装 女子下服
 ワイシャツ ネクタイ メリヤ 帽靴 女学生服
 平町五丁目 電話三五番